

安倍 9 条改憲の危険性と発議阻止に向けたたたかい

「安倍 9 条改憲 NO ! in とちぎ」講演 2018.11.04.渡辺治

はじめに 臨時国会から新局面に入った安倍改憲

(1)安倍総裁 3 選、くり返し臨時国会に改憲案提示を表明、所信表明演説での言及
改憲強行の新体制で与野党協調推進派を一掃

→下村博文党憲法改正推進本部長、衆院憲法審査会幹事から中谷元、船田元を更迭、
新藤義孝らに入れ替え・・・所信表明演説で「政党が具体的な改正案を示すことで、
国民のみなさまの理解を深める努力」

(2)もともと、17 年 5 月 3 日の改憲提言の思惑では、2018 年通常国会で発議、国民投票
・・・しかし、モリカケの国会での追及で政権支持率激減、改憲案まとめ、無理
市民と野党の共闘の亀裂に乗じて 10. 22 解散・総選挙したが、結局市民と野党の共闘
破壊はできず

(3)2018 年通常国会では、発議どころか、憲法審査会に改憲案提示もできず

(4)今回の体制、強硬発言は、改めて、改憲の意欲を見せたもの、安倍改憲は新たな局面に

1. 安倍はなぜ 9 条改憲に固執するか、9 条の力を改めて確認しよう

(1)なぜ、9 条の力を改めて確認するのか?

……国民の間にも、活動家の間でも、9 条は戦争法で穴が空いたのでは、という疑問
(山尾志桜理の立憲的改憲論、小林節、今井一、伊勢崎らの新 9 条論 e t c.)
→9 条は軍事化の最強の歯止歩だからこそ安倍は政治生命かけて 9 条改憲に執念を燃や
している

(2)9 条は運動の後押しを受けて、軍事化の大きな歯止めとなった

第二章 戦争の放棄

第九条 日州国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力に

よる威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権はこれを認めない。

50 年代改憲の策動を、安保闘争という国民的運動が潰した

→政府は、改憲を封印、9 条変えられないので、9 条の下で自衛隊、米軍の存続を

→自衛隊は 9 条 2 項が禁止する「戦力」ではない、「自衛のための必要最小限度の実力組織」、合憲・・・としてきた・・・

しかし運動は納得せず、憲法裁判や国会での追及で自衛隊の違憲な実態を暴露

① 自衛隊の海外派兵禁止、集団的自衛権行使禁止

90 年代、アメリカの「ともに血を流せ」という圧力の下、自衛隊の海外派兵の企てに
対し

- ② 国連の「集団安全保障」、多国籍軍へも武力行使伴う場合禁止
- ③ 武力行使目的でなくとも、「他国の武力行使と一体化した活動」はできない
- (3) 政府は自衛隊のインド洋海域、イラク派兵強行するが、大きな限界<小泉政権>
→改憲第2の波、これも九条の会の運動の昂揚により挫折
- (4) 再登場した安倍政権は9条に手を触れずに9条の限界突破をはかる
戦争法で限定的集団的自衛権、後方支援の制約突破、しかし9条があるため3つの限界
- ① 戦争法反対運動は戦争法違憲の闘いを止めないー全国で24の安保法制違憲訴訟
- ② 依然、フルスペックの集団的自衛権、多国籍軍参加、海外での全面的武力行使できない
- ③ 自衛隊員を戦場に縛りつける軍法、軍法会議などできないままに海外に派兵
→ **9条ある限り、安倍の狙うアメリカ追隨の軍事大国、いつまでもできない**

2 安倍はなぜ5・3(2017年)改憲提言を出したのか?

(1) 安倍の5・3改憲案は、改憲派の常識を覆した改憲案

- ・今までの改憲案は、みな9条2項を削除して、「自衛のための軍を保持」する案
- ・ところが、5・3提言は9条1項、2項を維持して自衛隊明記
- ・2項存置論はもともと、9条改憲反対の声が強い下で出された案、とくに公明党が推進…安倍は公明党の案をそっくりいただく…2002年公明党第4回大会「加憲」、04年第5回大会9条加憲、06年第6回大会条文案
- ・安倍の意を付度して**日本会議も9条加憲論**

(2) なぜ、安倍首相は9条1項、2項を存置して自衛隊を明記する改憲案を出したのか?

(a) 安倍は改憲を阻む運動の力をいやと言うほど思い知らされた

戦争法反対運動の中でできた総がかり。「市民と野党の共闘」が安倍改憲の前に立ち上がった

- ① 市民と野党の共闘による野党第1党民主党の変貌…結党以来20年で初めて、改憲反対…改憲手続法の「発議」部分は、与野党協議に基づく発議を重視…野党第一党の重要性
- ② 市民と野党の共闘を前提にすると解散・総選挙は打てない
→ 共闘を分断するか、公明・維新を引き連れ、衆院、参院の3分の2の議席の下で強行するか

→ 共闘分断無理、公明、維新を巻き込む

(b) 5・3改憲提言のねらい

市民と野党の共闘を敵に回したので公明党、維新の会を味方につけるしかない=加憲論…教育無償化案;;さらに戦略的には、改憲反対派を分断--日本会議が意義づけ(改憲はまず加憲から…伊藤哲夫;3分の2獲得後の改憲戦略)

3 自衛隊明記論はなぜ危険か？

(1)3000 万人署名の鍵-9 条加憲の危険性を見抜く

安倍首相、くり返し、自衛隊明記しても変わらない

(2)9 条自衛隊明記論、4 つの危険

「9 条の 2 前条の規定は、我が国の平和と独立を守り、国及び国民の安全を保つために必要な自衛の措置をとることを妨げず、そのための実力組織として、法律の定めるところにより、内閣の首長たる内閣総理大臣を最高の指揮監督者とする自衛隊を保持する。」

(a)合憲とされる自衛隊は、戦争法によって海外での武力行使が可能となつた自衛隊

これで、戦争法の合憲化、戦争法の全面発動へ、米軍の軍事行動への加担一層すすむ

(b)9 条 1 項、2 項はあつても死文化し、歯止めはなくなる、「戦争する軍隊」化、さらにすすむ・「9 割の国民に支持される」自衛隊にしていた 9 条 2 項が死文化し、自衛隊は変質する

国民の 9 割はなぜ自衛隊を信頼しているか？

一災害派遣でがんばる自衛隊、一海外で人を殺さない自衛隊 **(この 2 つが信頼の理由)**
しかし、

災害派遣は自衛隊の本務ではない、国民の信頼する自衛隊は自衛隊本来の活動ではない
自衛隊の災害復旧支援や、海外で人を殺さない自衛隊はなぜできたのか？

自衛隊は 2 項が禁止する軍隊であつてはならないという、9 条 2 項の縛り

自衛隊が憲法に明記されれば、自衛隊を違憲としないための「ムダな」努力は必要なくなる

(c)自衛隊明記で、9 条だけでなく憲法全体が変質「戦争する国」化

軍と戦争が憲法にない憲法-緊急事態も、軍刑法も、軍法会議も、軍事秘密保護法もない・軍も戦争もない憲法は人権と社会に明るさ-自衛隊・防衛省の追及、基地監視活動、可能・「軍部」ない

戦前明治憲法下では、非常事態の宝庫-戒厳権、緊急勅令、非常大権

軍事秘密保護法による市民監視、軍法、軍法会議で戦場に縛りつけられる

憲法に軍隊が明記されれば、事実上の軍法、軍法会議ができる、秘密保護法もがらりと変わる

(d)緊急事態条項の危険-9 条自衛隊明記と緊急事態条項がセットになると

緊急政令の導入はかる

非常事態に市民の自由を弾圧し国民を戦争に動員する体制づくり

4 安倍改憲阻上のために何が必要か？

(1)改憲強行、安倍の思惑

臨時国会中に、何とか衆参両院の憲法審査会に自民党案をだして議論
通常国会で公明、維新を巻き込んで改憲原案を提出、発議を目指し

できない場合も参院選で再び3分の2をとつて19年臨時国会以降で発議

(2)安倍改憲は困難抱えている、運動で阻止することはできる

自民、公明、維新で衆参両院、3分の2あり、しかし発議できない状況をつくる←沖縄県知事選

(a)19 通常国会会期中、4月いつせい地方選、5月代替わり儀式、7月参院選－改憲案審議困難

(b)発議の鍵を握る公明党が、参院選前には、安倍改憲案の協議に消極的

(c)野党分断を成功させねば、参院選前の発議も、参院選での3分の2も不可能

(3)安倍改憲をはばむにはどうするか？

臨時国会では、改憲論議に踏み込ませない

通常国会では、改憲原案の提出、改憲発議を許さない

安倍改憲最後の砦、参院選で3分の2を阻止し、安倍改憲の息の根を止める

これをやりきるには、国会、選挙での野党共闘と3000万人署名の2つ

(4)3000万署名、3つの意義

(a)3000万署名のためには5000万、6000万に当たる、一大国民運動、世論を変える
－ 九条の会が世論を変えた、2006～08年をもつと大規模に

(b)発議阻止の鍵は、衆参両院議員が改憲発議に消極的にさせること

地域の3000万で野党を団結、公明、維新、自民党の一部にも遊巡と再検討を

(c)3000万署名は、参院選における野党共闘勝利の土台、万一の国民投票の時の土台となる

(5)どうやって3000万署名を達成するか？

(a)3000万署名は大事業、もう1回体制を建て直し、達成までがんばる

大きな数字・・総選挙で立憲3党の比例選得票数は1643万、戦争法廃止署名1560万
・可能性はあるか？「声なき声」を掘り起こせー山口県の例

(b)3000万署名達成。3つの力点

① 運動の目標は発議阻止であることを確認

発議阻止のための大きな市民の声をあげることが、万一発議された時、国民投票で力となる

改憲手続法は市民の運動を規制し、改憲を通しやすくする悪法

改憲手続法の運動規制－教員、公務員の地位利用・・e t c.

改憲に有利な制度－スポット広告14日前まで自由、最低投票率ない、白票認めない

② 9条自衛隊加憲の危険性を市民に訴えることを強化

安倍首相の改憲の危険性は入っているが、9条自衛隊明記の危険性は市民の間にまだ入っていない
cf. 読売新聞世論調査で、9条自衛隊明記論に反対増えたが

NHKでは、賛成30,反対19, どちらとも言えない40

③ 地域、団体で改めて目標を再確認して、戸別訪問に力を入れてがんばろう

目標を再度確認、地域毎に住民の過半数を、職場の過半数を

地域では、戸別訪問と街頭での宣伝の二本だてで、とくに戸別訪問を重点にして取り組もう

地域でも職場でも署名してくれなくてもかまわない、広く訴える

むすびに代えて 安倍改憲を止める – 憲法の生きる日本への展望

(1)安倍改憲を止めば、朝鮮半島で進行する流れを強力に後押し

朝鮮半島の対話による非核化、平和構築の動きは、歴史的転換–70年ぶりの転換

安倍改憲は、今進行している方向を強めるのとは全く逆の安全保障の方向

安倍改憲を阻むことは、日本国民でなければできない責任

(2)安倍改憲をはばむことは、憲法が生きる日本をつくる第一歩

安倍改憲をはばんでも辺野古新基地建設はとまらない、沖縄基地問題はただちには解決しない

完全に止めるためには、自公政権倒す必要–安倍改憲阻むことは、その第一歩

(3)日本の平和は「空気」ではないこと、運動と憲法がつくったことを改めて訴えよう!

臨時国会で改憲論議をさせない、通常国会で発議させない、参院選で野党が勝利し安倍改憲を葬り去ろう

今こそ、市民と野党の共闘の出番

参考文献 渡辺治『戦後史のなかの安倍改憲』新日本出版